

鳥取城「中ノ御門」の歴史と特徴

表門と渡櫓門で構成される「中ノ御門」は、鳥取城の大手門として元和7年(1621)に、藩主池田光政によって創建されました。享保5年(1720)の大火で城内のほとんどの建物が焼失するも、表門は同年中に、渡櫓門は享保9年(1724)に再建されることから、鳥取城のなかでも重要な区画であったことがわかります。鳥取城は、廃城令においても軍事的利用価値が認められ存城となりますが、明治12年(1879)にその役目を終えるに際して、城内の象徴的な櫓群は順次撤去されていきました。このうち「中ノ御門」は、明治8年(1875)に解体されました。

「中ノ御門」は、枳形虎口に高麗門と櫓門を備える近世城郭ならではの配置を基本としつつも、広くひらいた虎口いっぱい表門を構え、石垣上に配した土塀を表門の棟まで高く築き上げるなど独特な門構えをしているほか、渡櫓門においては屋根に切妻造を採用するなどの特徴がみられます。

進む鳥取城復元事業

鳥取城は、江戸時代には全国約300藩あるなかで上位12番目の規模を誇る鳥取藩32万石の居城でした。かつて大藩であった鳥取城の姿をわかりやすく後世に伝えるため、鳥取市は平成17年度(2005)に整備基本計画を策定し、現在、整備第一段階である大手登城路の復元整備を行っています。

平成30年度(2018)に擬宝珠橋、令和2年度(2021)に表門を復元し、このたび渡櫓門が竣工したことで「中ノ御門」全域が完成しました。令和7年度(2025)より、鳥取城の天守に位置付けられていた「二ノ丸三階櫓」の復元に向けた調査事業に着手します。

慶應2年～明治4年撮影・鳥取城大手登城路(鳥取市教育委員会蔵)

祝
-竣工-

中ノ御門「渡櫓門」

国指定史跡 鳥取城跡

中ノ御門

完成記念 開門式

このたび、全面開通！

【日時】令和7年4月26日(土) 午前10時25分開式

【会場】国指定史跡「鳥取城跡」擬宝珠橋(橋上)

鳥取市

式次第

1. 開式のことば

2. 市長あいさつ

鳥取市長 深澤 義彦

3. 経過報告

鳥取市教育委員会教育長 河井 登志夫

4. 来賓紹介

5. 祝 辞

鳥取県知事 平井 伸治 様

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

6. 感謝状贈呈・謝辞

設計・監理 株式会社文化財保存計画協会

代表取締役 矢野 和之 様

7. テープカット

8. 開門号令

鳥取市長 深澤 義彦

9. くぐり初め

ご来賓、時代行列、一般観覧者の順でお進みください。

鳥取城復元事業の概要

○事業経過

平成17年度
平成18年度
平成21～令和2年度
平成25～26年度
平成27年度
平成26～27年度
平成28年度
平成30年度
令和元年度
令和2年度
令和3年度
令和6年度

保存整備基本計画策定
保存整備実施計画策定
大手登城路発掘調査
大手登城路基本設計
大手登城路実施設計
文化庁復元検討委員会審査
「擬宝珠橋」復元工事着手
「擬宝珠橋」復元工事完了
中ノ御門「表門」復元工事着手
中ノ御門「表門」復元工事完了
中ノ御門「渡櫓門」復元工事着手
中ノ御門「渡櫓門」復元工事完了

○中ノ御門「渡櫓門」復元工事の概要

工事額 約5億2,150万円（土堀を含む）
規模 渡櫓門 木造2階建 全高9.2m、全幅10.6m
土堀 総延長 73.6m
木材 ケヤキ（1階）、ヒノキ（2階）、マツ（床梁、小屋梁）
特長

このたびの中ノ御門「渡櫓門」復元工事は、鳥取城復元事業としては、初の室内空間を持った本格的な城郭建築の復元になります。伝統技術を駆使するだけでなく、専門家による時代考証・技術指導を重ね、材料の加工方法や仕上がり具合など、細部に至るまで江戸時代の城郭建築の再現に挑みました。

